

五種混合ワクチン

(対象年齢：生後2月から生後90月に至るまで)

(標準：1期初回：生後2月に達した時から生後7月に達するまで)

令和6年4月以降、定期接種化されました。(原則、ヒブも四種混合も接種したことがない方が対象です。)5つの病気(ジフテリア、百日咳、破傷風、ポリオ、ヒブ)に対するワクチンが一つになったもので、1回の接種では十分な免疫ができないため初回3回と追加1回の接種を行います。赤ちゃん時代に基礎免疫をつくっておけば、一定の年数をおいて追加接種することで免疫力を維持することが可能です。

病気の説明

- **ジフテリア**…ジフテリア菌の飛沫感染によって発症する病気です。高熱や喉の痛み、咳などが起こり「偽膜」とよばれる膜ができて窒息することもあります。発病から2~3週間後には菌の出す毒素によって心筋障害や神経麻痺を起こすことがあります。
- **百日咳**…百日咳菌の飛沫感染によって発症する病気です。風邪のような症状ではじまり、続いて咳がひどくなります。乳幼児は咳で呼吸ができず、チアノーゼやけいれんが起こることがあります。
- **破傷風**…土の中にいる破傷風菌が傷口から侵入し感染、発症する病気です。さまざまな神経症状(けいれんや手足の硬直、呼吸マヒなど)があらわれ、発病者の約2割が命を落とすといわれています。破傷風は自然感染によって免疫を獲得することはなく、予防接種を受けた人のみが免疫を獲得します。
- **ポリオ**…ポリオは小児まひとも呼ばれています。かかっても無症状か、風邪に似た症状ですむ場合がほとんどですが、症状が出る場合は熱が下がった後に手足等に弛緩性麻痺を生じます。
- **ヒブ**…ヒブは健康な乳幼児の鼻やのどの粘膜から検出されることもありますが、多くは発症しません。しかし、風邪などで鼻やのどに炎症が起きた際に菌が血液の中に入ると、脳障害を起こす細菌性髄膜炎や、呼吸困難になる喉頭蓋炎、細菌性肺炎などを起こすことがあります。

接種時期と回数

初回接種は、生後2月から7月までの開始し、20日から56日までの間隔をあけ3回、追加接種を初回終了後6月から18月までの間隔をおいて1回受けます。



※標準接種間隔：20日から56日の間隔

※なお、2期として11歳の時にジフテリア破傷風2種混合ワクチンを1回接種します。

副反応と注意点

注射部位の発赤、腫脹(はれ)、硬結(しこり)などの局所症状が主です。1回目の接種よりも、2回目以降の接種で発現頻度が高いとされます。なお硬結(しこり)は少しずつ小さくなりますが、数か月残ることがあります。また、全身反応として、発熱や不機嫌を認めることがありますが、数日以内に軽快することがほとんどです。※法で定められた期間内に接種されない場合は、自己負担となりますのでご注意ください。